



『野に咲く花のように』

杉山 政美 作詞
小林 亜星 作曲

野に咲く 花のように
風に吹かれて
野に咲く 花のように
人をさわやかにして
そんなふうにはぼくたちも
生きてゆけたらすばらしい
ときには暗い人生も
トンネル抜ければ夏の海
そんなときこそ 野の花の
けなげな心を知るのです

野に咲く 花のように
雨にうたれて
野に咲く 花のように
人を和やかにして
そんなふうにはぼくたちも
生きてゆけたらすばらしい
ときにはつらい人生も
雨のち曇りで また晴れる
そんなときこそ 野の花の
けなげな心を知るのです
ルルル・・・・・・・・



ありのままの自分で

校長 髭白 梨香

新年度が始まり、子どもたちは新しい教室、新しい友だち、新しい先生の中で、毎日少しずつ表情を変えています。朝、校門で「おはようございます」と声をかけると、まだ緊張した面持ちの子もいれば、「今日はね…」と話したくて仕方がない子もいます。そんな日々の中で、少しずつ安心した顔が増えてきました。

今、各学年、各学級では、学年目標や学級目標を話し合いながら、「今年の自分の目標」を具体的に考えています。教室や廊下に貼られた自己紹介カードには、子どもたちの素直な言葉が並んでいます。「絵をかくのが得意です」「なわとびを100回跳びたい」「友だちをもっとふやしたい」カードの前を通るたびに、「あ、この子はこんな一面があるんだ」と、思わず立ち止まってしまう。

自分のことを知ることは、とても大切な学びです。得意なこともあれば、苦手なこともあります。「できる日」もあれば、「今日はちょっと…」という日もあります。その全部をひっくるめて「これが自分なんだ」と受け止められると、「ありのままの自分でいいんだ」と思えるようになります。

これは、子どもだけでなく、私たち大人にも当てはまります。つい、人と比べてしまい、「自分はまだまだだな」と落ち込むこともありますよね。でも、誰が何と言おうと、私たちは皆、かけがえのない存在です。「自分は自分で大丈夫。あなたはあなたで大丈夫。」そんなふうには、自分をまるごと肯定できる気持ちを育てていくことが、自分らしく生きていく力につながっていくのだと思います。

学校では、「いいとこさがし」や「言われてうれしかった言葉集め」など、自分や友だちの良さに気付く活動を行っています。ある子は、友だちから「いつもやさしく声をかけてくれるところが好き」と伝えられ、照れながらも嬉しそうにしていました。また別の子は、「そんなふうに見てくれていたんだ」と、少し驚いたような、でもどこか誇らしげな表情を見せていました。自分では気付かなかった一面を、友だちがそっと教えてくれる。その気付きが、子どもたちにとって心の宝物となり、自分らしく歩んでいく大切な土台となります。

私たち一人ひとりには、それぞれにしかない良さがあります。良いところも、うまくいかないところも、全部が自分の大切な一部です。そのすべてを抱えながら、これからもいろいろなことに挑戦して行ってほしいと願っています。

そして、挑戦する子どもたちを、私たちはこれからも温かく見守り、支えていける学校でありたいと思っています。